



PM2.5の正体を探る!

Q1.
増えているの？

Q3.
どこから来たの？

Q2.
正体はなに？



春先の黄砂の季節は終わりましたが、今年の秋・冬も越境汚染によるPM2.5(大気中微小粒子状物質)の増加が気になるところです。大阪市では12地点で自動測定機によるPM2.5の常時監視を行い、そのうちの2地点では、手動測定機による季節毎の成分分析も実施しています¹⁾。PM2.5に含まれる化学成分に興味を持たれる方は多いと思われます。



PM2.5の採取装置

Q1. PM2.5は増えているの？

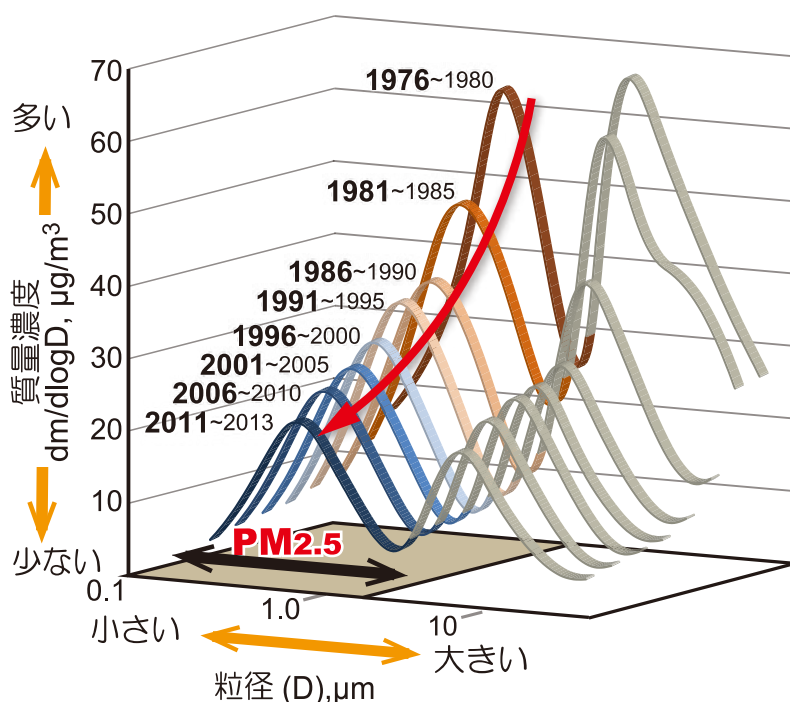


図1. 年度ごとの粒径の大きさと濃度の変化

(大阪市内における大気中粒子物質の粒径分布曲線)

ずばり、長い目で見ると減ってきています。図1は、市内の大気中粒子状物質の粒径分布曲線と呼ばれるもので、1970年代に比べ全粒径で経年的に濃度が減少してきています。PM2.5は図の黒い矢印で示す範囲の粒子に相当します。規制等の対策により粒子の濃度は全粒径で減少してきたのですが、その傾向は1990年以降にやや鈍くなってきていることが読み取れます。平成25年度の大阪市内におけるPM2.5年平均濃度は、一般環境大気測定局で $17.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車排出ガス測定局で $18.9 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、環境基準 ($15 \mu\text{g}/\text{m}^3$) をまだ超過しています¹⁾。